

館長だより

山形県産業科学館

平成27年3月16日 第40号

発行 館長 大津 清

満員御礼の「科学マジックショー」

去る3月7日(土)に山形県産業科学館2階フリースペースにおいて、「科学マジックショー～みんなでマジックに挑戦!～」が行われました。講師は、たんけん科学ランド相談員の石山泰規先生と鈴木景子先生、奥山章一先生、サポート役にテクノボランティアの工業高校生4名です。

館の受付場所からエレベーターまで並ぶほど大盛況でした。カードをつかったマジックやスプーン曲げなど次々に不思議な楽しいショーが繰り広げられ、歓声があがるなど大いに盛り上がりました。

参加者は見学者も含めて約140名でした。

これからも面白いイベントを行ってまいります。ぜひ、ご参加ください。



祝「サウンドウェーブ」「ボイスチェンジャー」新設

去る3月14日(土)に、「サウンドウェーブ」と「ボイスチェンジャー」が山形県産業科学館4階に新設されました。

「サウンドウェーブ」とは、両手を、上下左右に広げたり縮めたりして、音の波形をコントロールします。

「ボイスチェンジャー」は自分の「声」を録音した後、タッチパネルの円盤を操作して変化させて、その声を聞いてみるものです。

音を視覚的にわかりやすく見ることができ、音について楽しみながら学ぶことができます。

これらのアイテムはアイジー工業株式会社名誉会長石川堯様より寄贈いただきました。ありがとうございます。ぜひ、体験してください。



天野浩さん(名古屋大学教授) 特別講演会

「なぜ勉強をしなければならないか、高校生の時まではわからなかった。しかし、大学の講義で工学とは人のためになる学問と聞いて以来、視野が広がり、どんな学問も好きになり、何でも頭の中に入ようになった」

「私は研究者になろうと思ったことは一度もなく、今でも研究者だと思っていない。私の原動力は人の役に立つこと、世の中を変えることで、その実現のために何をしなければいけないか、それを考えるのが研究者といえ、研究者。なぜ研究者になりたいのかを突き詰めて考えると自ずと自分の立つ位置がわかるのでは」

「不可能と決めるのは、多くの場合、やってきた人たちの言い訳に近い。当時の人たちが諦めた理由をよく突き詰めて考え、まだ試されていない方法を自分で見出すことが大切」

「青色 LED が開発できれば、世の中の役に立つというイメージを持っていたことが、ずっと続けられた理由。研究者に大切なことは、楽観的であることと、成功イメージを常に持ち続けることだ」

(「宮城の新聞 <http://shinbun.fan-miyagi.jp>」より)

天野浩さんは、青色発光ダイオード(LED)の開発で、2014年のノーベル物理学賞を受賞しました。上に掲げたものは東北大学主催、2014年12月26日仙台市民会館における東北大学主催特別講演会における高校生とのトークセッションでの先生の言葉です。人の役に立つこと、そして志や夢をもつ大切さを高校生に訴えたのでした。